

おおさき 市民活動だより

高校生夏休みボランティア 特集号

大崎市市民活動サポートセンター
〒989-6162 大崎市古川駅前大通1-5-18
TEL0229-22-2915 FAX0229-22-9955
E-mail:npo@bz01.plala.or.jp

今年の夏は、記録的な猛暑となり熱中症が心配されましたが、関係者の皆様のご協力により無事終了することができました。

今年で10回目の節目を迎えた高校生夏休みボランティア。2009年の最初の年は参加人数も少ない状況でしたが、翌年からは順調に進み2011年の東日本大震災の年には53名もの応募があり、社会的にもボランティアが注目されているということを目の当たりにした年でもありました。

これまで継続できたことは、ボランティアに対する考え方が時代と共に変化し、ボランティア精神が根付いてきている証でもあると感じています。

大崎市が進める市民公益活動活性化を支えるボランティア活動が、更に大きく広がることを期待します。



「NPO 法人みんなの教室」の利用者さんと一緒に芋掘り体験
掘ったじゃがいもを使ってコロッケ作りにも挑戦！



参加高校
(6校:23名)

- 古川黎明高等学校
- 古川高等学校
- 古川工業高等学校
- 大崎中央高等学校
- 古川学園高等学校
- 松山高等学校

「NPO 法人おおさきエフエム放送」で
息が合った二人のトークを生放送！

「高校生夏休みボランティア」の更なる発展を祈念して

宮城県古川工業高等学校長 秋山 幸弘

はじめに、今年で記念すべき10回目となる「高校生夏休みボランティア」を企画運営していただきました大崎市市民活動サポートセンターの皆様に改めて感謝申し上げますとともに、高校生に様々なご指導ご支援をいただきました受入れ団体の皆さんに心からお礼申し上げます。

さて、今年の夏は、記録的な猛暑となり、西日本豪雨、台風被害、北海道震災など日本各地で災害に見舞われた夏でした。一方、復興支援ボランティアに参加する方々の活動の広がりがメディアに多く取り上げられ、社会貢献、福祉活動等への関心が高まりを見せた今夏でもありました。

高校生夏休みボランティアは、異年齢の方々や地域社会との交流を通して、高校生自身が新しい自分を発見し、社会問題についても考えるきっかけになるなど、教室の中では得られない広い知見を得る貴重な体験になるものと確信しています。

今後とも、大崎の高校生が大崎に貢献できる場を提供して頂きますようお願い申し上げますとともに、「高校生夏休みボランティア」の更なる発展をご祈念申し上げます。

〔活動日誌指導所見より〕

高校生ボランティアを受け入れて

NPO法人LEAF26理事長 村上 昌芳

被災地での傾聴やお話サロンでの対応を心の相談員と一緒に活動していただいた。事前に担当会員が事業内容や手法について説明したが、理解力も早く実際の活動においては相手に対する接客や態度もその場に合わせてできていたので感心した。会話の中では相手の話に傾き、好感の持てる受容、思慮深さがみられた。被災者の思いをくみ取り、言葉遣いや視線の向け方ににおいて丁寧に対応でき、パーソナルスペースの取り方もよかつた。特に笑顔が素晴らしい、その場を大切に出来る明確さもあつたので一層育んでいただきたい。

ボランティア体験

松山高等学校3年 鈴木 濯

私は初めて障がいを持った子どもたちのボランティアに参加させていただきました。初めは正直不安ばかりでしたが、子どもたちの方から話しかけてくれたので嬉しかったです。

特に印象に残っているのは、買い物体験です。子どもたちが自分のお昼ごはんを決めて買うというものです。子どもたちが自分たちで買えるよう補助もしました。また、職員の方々がどのような言葉がけしているのかを見て勉強になりました。子どもたちが自分で買った事にも喜んでいるのも印象的でした。

今回のボランティア活動を通して、障がいの子どもの接し方などを学ぶ事が出来ました。私は将来子どもに携わる職業に就きたいと思っているので、このボランティアは非常に良い経験になったと思います。二日間学んだ事をこれから的人生に活かしたいと思いました。二日間の短い期間でしたが、ありがとうございました。

ボランティア体験

古川高等学校3年 菅原 愛加

私は普段、当時（東日本大震災）被害にあわれた方の話を聞ける機会があまりないので、とても貴重な体験をすることができました。

私がボランティアに参加する前に、東松島を訪れたのは一面ガレキの山ばかりでトラックが走ったり来たりしているような時でした。今回は、もう一度自分の目で見て、メディアを通さない生の声を聞き、今の復興の現状を知る事ができ、とても勉強になりました。また、送迎してくださった櫻井さんには当時被害にあった場所や復興の為に新しくつくられた所等、細かく丁寧に教えてくださいました。岩井さんには憩いの場を提供する側として必要な事を体験を通して教えていただきました。今回学んだ事を将来生かせるように努力します。本当にありがとうございました。

ボランティア体験

古川黎明高等学校2年 佐藤 留実

今回のボランティアを体験して、非常に大切なことを学びました。

1つは接し方についてです。誰にでも平等に、障がい者さんだからといって変に気を遣わずに従業員の方はコミュニケーションをとっていました。担当者の方いかく、変に気を遣ってしまうと、障がい者さんにもそれが伝わってしまうそうです。どんな相手であろうと、分け隔てなく接することが大切だということが分かりました。

もう1つは観察力についてです。障がい者さんの顔色やちょっとした行動の変化にすぐ気付き、対応している姿が多くみられました。一人ひとりをよく見て行動することで大事に至ることを未然に防ぐこともこの仕事において大切なと思いました。

この経験を今後に生かせるようにしたいです。2日間ありがとうございました。

高校生夏休みボランティア実施要領

- ①参加申込
- ②活動先決定
- ③事前学習会（必須）
- ④ボランティア保険加入

- ⑤ボランティア活動
- ⑥活動日誌の報告
- ⑦修了証書の発行

◆古川中央児童館



◆古川東児童センター



◆古川稲葉児童センター



◆大崎市中央公民館



◆NPO法人輝らら会



◆NPO法人 ドリーム・グリーン・プロジェクト



◆NPO法人鬼首山学校協議会



■10回目を迎えて思う…

2009年から始まったボランティアですが、毎年応募いただき、関心の高さが伺えます。

最初に体験した高校生の皆さんも、25歳から28歳になり社会人として活躍されていることでしょう。

2011年の東日本大地震の年は、53名の参加申込があり、NPO法人の中には被災地へ出向いたボランティアもありました。直に感じた高校生の素直な気持ちが感想として寄せられていました。この経験をこれから的人生に生かされることを期待したいです。

◆古川南児童センター



◆古川三本木児童センター



◆特養老人ホーム敬風園



◆特養老人ホーム寿楽苑



◆NPO法人 Synapse40 ◆NPO法人 LEAF26 ◆事前学習会



ボランティア受入団体（13団体）

- | | |
|----------------|-------------------------|
| ○古川中央児童館 | ○NPO法人 輝らら会 |
| ○古川東児童センター | ○NPO法人 ドリーム・グリーン・プロジェクト |
| ○古川南児童センター | ○NPO法人みんなの教室 |
| ○古川稲葉児童センター | ○NPO法人 LEAF26 |
| ○三本木児童交流センター | ○NPO法人 Synapse40 |
| ○大崎市中央公民館 | ○NPO法人 鬼首山学校協議会 |
| ○(特養老人ホーム) 寿楽苑 | ○NPO法人 おおさきエフエム放送 |
| ○(特養老人ホーム) 敬風園 | |

感想文より抜粋

古川高校2年 板垣 由萌

私は、このボランティア活動をして、人の温かさを実感することができました。

それは、三本木児童交流センターで多くの子どもたちと触れ合えたことと、鬼首のキャンプ場での接客でお客さまに「ありがとうございます」と言われたことです。

ボランティア活動は、今までに体験したことのなかったようなことができて、すごく貴重な体験でした。これからも積極的に活動を行い、少しでも多くの人たちの役に立てればと感じました。

古川高校2年 山内 彩詠

私は今回のボランティアに参加して子どもと関わる大変さと楽しさを学ぶことができました。

私が思っていた以上に、子どもたちは活発で、体力的に少し厳しい面もありましたが、それと同時にたくさんの笑顔と元気をもらつたので、この機会が本当に良い経験をさせていただいだなど、とても感謝しています。

この経験を参考に、進路を広げていきたいと思います。短い間でしたが、本当にありがとうございました。

大崎中央高校3年 大藤ゆみ子

今回のボランティア活動をして、たくさんのことを学ぶことができました。先生方はとても明るく接してくれたことで、楽しく子どもたちとも接することができました。子どもたちを見ることはすごく重大な仕事だと分かりました。

古川学園高校2年 鹿野 考弘

一日目は緊張していましたが、二日目は緊張も解け、利用者さんと話をしたり、車椅子の補助や食事の介助などで、とても充実したボランティア体験をすることができました。利用者の皆さんのが高齢とは思えないほど、生き活きと過ごしていたことに、何よりも驚いています。短い間でしたが、とても良い経験になりました。

古川工業高校3年 紺野 愛莉

今回初めてのボランティアだったので、迷惑をかけるかもしれない、心配でしたが皆さんが温かく受け入れてくださいました。

利用者さんにご飯を食べるためのエプロンを付けて回った時の有難うの言葉は嬉しく、忘れないで記憶に残しておきたいと思いました。